資料１

第３回計画策定委員会検討内容についてシビックとよおかによる意見聴取の結果

期間：2026/10/27～2026/11/5

問３　人生100年時代に向け、いつまでも自分らしく暮らすために、どんな仕組みやサービスがあったらいいなと思いますか？

健康で自立した生活を支える住まいと生活支援

- 老人ホームと社宅の中間のような、自立した高齢者が交流し、互いに支え合いながら暮らせる住居施設
- 曜日や時間を気にすることなく、高齢者の代わりに家族等がゴミを持ち込める場所の設置等、従来のルールにとらわれない生活支援サービス

年齢にとらわれず働き、社会参加できる仕組み

- 働く意欲のある高齢者と、短時間・単発の人手を必要とする企業を結ぶマッチングサービス
- ボランティア活動に対する適正な報酬や、活動実績を将来の介護などに活用できるポイント制度等

自由に外出でき、人とつながれる地域交通と交流の場づくり

- 免許返納後も安心して移動できるライドシェアなどの交通サービス
- 高齢者、子ども、学生、親子など、誰もが自由に集まり、交流できる居場所づくり

住民主体の地域づくりと行政の横断的な支援

- 地域住民の自主的な活動に対する資金、人材、場所、制度面での支援
- 一人ひとりの経験や能力、自由な発想を生かし、住民と行政が協力して地域の未来をつくる取り組み

問４　「新しい認知症観」を広め、市民の認知症に対するイメージを変えていくためには、どこで（職場・学校・地域など）、誰に、どのような方法で啓発を行うのが効果的だと思いますか。

認知症の現実は、知識の周知だけでは理解しきれない

- 家族や周囲の人も、理解しようと努力していても、繰り返される言動や対応の難しさから精神的な負担を抱えることがある。認知症の知識を広めるだけで、こうした現実を受け止められるようになるわけではない。
- 自己責任論が社会を覆う現代、捉え方や新しい言葉を掲げるだけでは、問題は解決しない